

令和5年度 民間資金等活用事業調査費補助事業

栃木県「文化と知」の創造拠点 PFI 等導入可能性調査

(調査対象箇所：栃木県宇都宮市 美術館・図書館・文書館の複合施設)【調査主体】栃木県

調査対象事業の概要／施設の概要

<事業概要>

栃木県立美術館、図書館及び文書館について、「文化と知」の創造拠点として一体的に再整備するに当たり、民間活力を導入する場合の事業スキームを検討するとともに、その効果や課題等を整理し、民間活力の導入可能性の評価を行う。

<施設概要>

- ・ 名称：栃木県「文化と知」の創造拠点
- ・ 概要：県立美術館、図書館及び文書館の複合施設
- ・ 施設規模：敷地面積 33,630㎡
延床面積 30,000㎡～36,000㎡程度



検討経緯等

- ・ H27 各館のあり方、移転先検討開始
- ・ R4.12 「文化と知」の創造拠点として、県立美術館、図書館及び文書館を一体的に整備する県の考え方を表明
- ・ R5.8 整備構想策定検討委員会発足、第1回委員会開催
- ・ R5.10 第2回委員会開催、一体的整備及び整備地について了承（以後、R6.9までに全6回開催し、基本理念やコンセプト、機能と役割、施設整備計画、管理運営計画等を議論）
- ・ R6.3 PFI等導入可能性調査を実施（～R7.2）
- ・ R6.4 整備構想に係る中間案を公表
- ・ R6.11～12 整備構想に係るパブリック・コメント実施
- ・ R7.1 整備構想を策定、公表

事業化に向けて解決すべき課題及び検討すべき内容

□ 解決すべき課題

- ✓ 施設の老朽化・収容能力不足、バリアフリー等の利便性向上
- ✓ デジタル化の推進
- ✓ 入館者数の低迷、県職員の人的資源不足

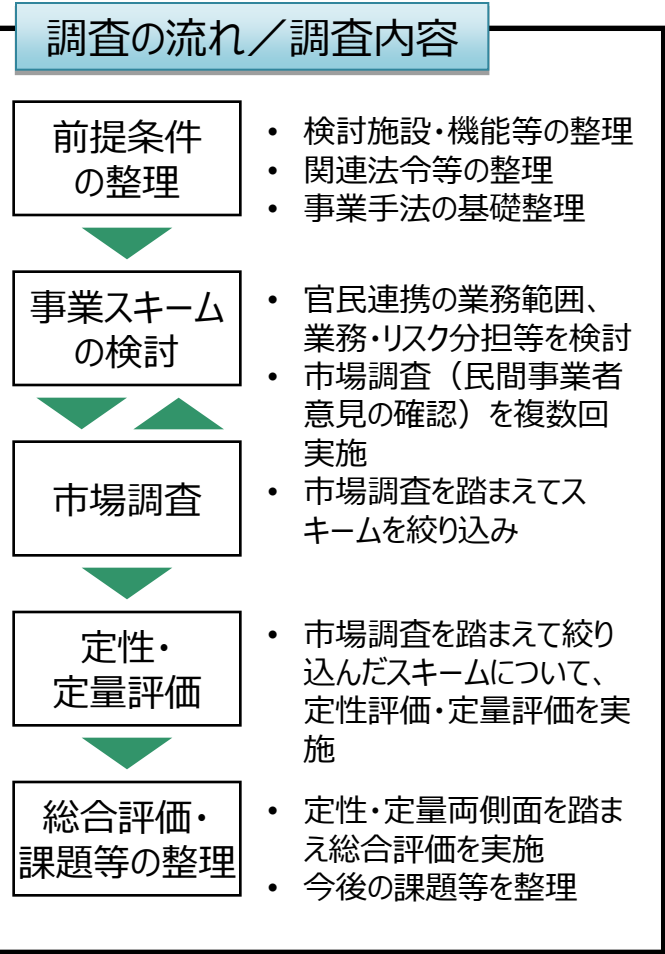
□ 検討すべき内容

- (1) 整備運営手法の整理
- (2) 法令及び支援制度の整理
- (3) 事業スキームの検討
- (4) 市場調査の実施
- (5) VFMの算定
- (6) 課題等の整理
- (7) 民間活力導入に係る評価

令和5年度 民間資金等活用事業調査費補助事業

栃木県「文化と知」の創造拠点 PFI 等導入可能性調査

(調査対象箇所：栃木県宇都宮市 美術館・図書館・文書館の複合施設)【調査主体】栃木県



今後の進め方

- ・R7～8 実施方針の策定、要求水準書の作成、特定事業の選定
- ・R8～9 事業者選定手続
- ・R9～ 設計・施設整備

事業化検討

(サウンディング結果)

- ・PFI(BTO)を希望する企業が最も多く、複数のグループの参画が見込まれる。
- ・学芸業務や司書業務等のコア業務は県が担った方が参画可能性が広がる。
- ・本事業は収益面の創意工夫の余地が少ないことから、コンセッションでの参画は難しい。

(定量評価・定性評価を踏まえた総合評価)

定量評価においては、従来型に比べてVFM（約7%）が期待でき、定性評価においては財政負担の平準化や、民間ノウハウの活用等によるサービス水準の向上が期待でき、かつ県立施設として求められる専門性や将来的な継続性が担保可能になることなどから、PFI(BTO)が総合的に優位な事業スキームと評価できる。

区分	従来型(個別発注)	PFI(BTO)
評価項目	財政負担額	◎ 民間の資金調達コスト等のPFI特有の追加費用が生じるが、設計に維持管理・運営者意見を反映でき、長期・性能発注による事業費削減効果が期待できる
	財政負担の平準化	◎ 整備費を事業期間にて分割払が可能
	サービス水準	◎ 設計に維持管理・運営者意見を反映でき、長期・性能発注による民間ノウハウの活用が期待できる ・民間に適切に業務を配分することにより、県の業務量が軽減され、専門業務に集中・特化できる
	専門性・継続性	○ 運営主体に変更が生じた場合に課題があるが、コア業務を県が担うことで担保できる

(多様な効果の検討評価)

- ・設計段階からの3館一括発注により、集客性を加味した施設・サービスの企画・検討、中長期での発展的取組が期待できる。
- ・県内外からの集客性向上により、周辺地域経済への波及効果、本事業に関わる雇用機会の創出などが期待できる。

想定される課題

- ・民間との適切な役割分担の詳細整理
- ・3施設の具体的な連携内容及び運用方法
- ・高騰する施設整備費等を見据えた適切な予定価格の設定